

「第三十四回庭野平和賞」贈呈式 名誉会長挨拶

本日は、「第三十四回庭野平和賞」の贈呈式にあたり、文部科学事務次官・戸谷一夫様とだにかずお、日本宗教連盟理事長・芳村正徳様よしむらまさのり、駐日ローマ法王庁大使・ジョセフ・チェノットウ様をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、あつく御礼申し上げます。

今年度の庭野平和賞を、「ヨルダンおよび聖地福音ルーテル教会」の監督であり、「ルーテル世界連盟」前議長のムニブ・A・ユナン師にお贈りできますことは、大変光栄なことでございます。

ご存知のようにユナン師は、ユダヤ教、キリスト教、イスラームの聖地であるエルサレムで諸宗教間の対話を推進しておられます。とりわけイスラエル・パレスチナ問題の平和的な解決に向け、精力的かつ献身的な努力を続けてこられました。

庭野平和賞が、イスラエルとパレスチナの融和に取り組む個人および団体に贈呈されますのは、第十回の「ネーブ・シヤローム／ワハット・アツサラーム」、第十八回の「エリヤス・チャコール師」、第二十三回の「ラバイズ・フォー・ヒューマ

ンライツ」に次いで、四回目であります。

庭野平和賞委員会および当財団が、中東問題の解決に、深い関心を抱き続けていることが、このことからもお分かり頂けるのではないかと思います。

人間は、誰もが完全ではありませんから、時には相手と行き違いが生じ、対立したり、ケンカになったりすることがあります。問題がこじれてしまったケースでは、中立的立場の第三者が仲裁に入り、解決に向かわせるというのが一般的であります。これは、個人においても、民族や国家間であっても同様であります。

ユナン師の場合は、一九五〇年、パレスチナ難民のご両親のもとにお生まれになっています。つまりイスラエル建国によつて、故郷を追われた当事者のお一人であります。その意味では、イスラエル・パレスチナ問題に対して、中立的な態度をとり切れなかったとしても不思議ではありません。

しかし、ユナン師は、ユダヤ教、キリスト教、イスラームを等しく尊重し、敵・味方なく全ての人々に愛をもって接し、共に平和への道を歩んでいけるよう地道な努力を重ねてこられました。

受賞を受諾するメッセージの中で、ユナン師は、こうおつ

しゃっています。「他者の中に神の顔を見る」ことが大事である、と。

私は、この言葉に、ユナン師のバックボーンとも申すべき精神があらわれているのではないかと受けとめております。

「他者」ということの中には、自分を敵視する者、差別する者も含まれます。それでもなおユナン師は、「他者の中に神の顔を見る」という宗教的な態度を、長年にわたって貫き通してこられたのであります。

このユナン師の言葉に接した時、私はすぐに、仏教の法華經に説かれている常不輕菩薩を思い起こしました。

常不輕菩薩は、人に出会うたび、「あなたは仏になる人です」と言って、合掌・礼拝した菩薩です。その行動を奇妙に感じた人々は、ついに怒り出し、杖で叩いたり、石を投げつけたりしました。それでも決して相手を怨んだりすることなく、

「私はあなたを軽んじません。必ず仏になる方ですから」と言って、合掌・礼拝し続けたのです。

この常不輕菩薩は、釈尊の真の精神を体現した菩薩であり、釈尊の前世の姿ともいわれております。

すべての人に宿る仏性を認め、尊重し、拝み合い、助け合うことよって初めて、平和な世界が実現することを、常不輕菩薩の説話は象徴的に教えているのであります。

そもそも私どもは、あらゆるものとの無限の関連の中で生かされて、生きています。仏教では、それを「縁起」といい、単なる「個人のいのち」という捉え方を超えて、すべてが「大いなる一つのいのち」であることを教えています。それは、自他一体ということであり、本来は皆が、兄弟姉妹であるということでもあります。

同時に、私どもは、世界でただ一人の、他と代わることのできない尊厳なる存在であります。そして、神仏に授かった尊いいのちを、いま一人ひとりが懸命に生きているのであります。

ユナン師の「他者の中に神の顔を見る」という言葉は、こうした仏教の見方とも、根底で相通ずるものがあり、深く共感し、敬意を抱く次第であります。

すでに皆さまもお気づきのように、ユナン師は、大変柔軟なお顔をされています。誰に対しても、どのような場面でも、変わることがないものと思えます。

ユナン師ご自身、「常に穏健を心がけてきた」とおっしゃっています。しかし、ユナン師のおっしゃる穏健とは、単に穏やかな言動を心がけることとは、異なるように思えます。い

ま申し上げた常不輕菩薩のように、どのような困難にも屈することなく、全ての人々に対して合掌・礼拝するという、優しさと気魄を内に秘めた態度であります。言い換えれば、真の寛容の精神から生まれる穏やかさではないでしょうか。

混迷する状況の中で、どちらか一方の立場に偏ることなく、双方を尊重し、すべての人に愛を注いでいくことは、実は大変に難しく、勇気のいることであります。

中東だけでなく、日本もまた、近隣諸国とのいろいろな問題を抱えています。一部には、感情的かつ強硬な態度も見られます。そのような中、ユナン師の精神と行動は、私ども日本人に、極めて重要な示唆を与えてくださっているように思えます。

本日の贈呈式を契機として、ユナン師の願いと行動を、より多くの人々が共有することを期待し、またユナン師がご健康で、これまで同様にご活躍くださることを祈念して、挨拶と致します。

ありがとうございました。